

認知症予防プロジェクトの中核としての能動的・受動的園芸療法 - 能動的技法と受動的ハンドケアトリートメント技法等の組合わせの可能性 -

小浦誠吾*・池田明子・長尾和穂・西川千恵子・押川武志・仙波梨沙
西九州大学リハビリテーション学部 symkoura3@gmail.com

1. はじめに

2014年認知症サミットにおいて、日本国首相からの見直しが宣言され、7本の施策からなる「新オレンジプラン」（2015、厚労省）が発表された。認知症初期集中支援チームが含まれる「容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」は、施策成功のカギを握るものと考えられる。認知症の方やMCIなどのその予備軍とされる方を中心に考えると、いわゆる農耕の行為を中心とした能動的な園芸療法では、一次予防の時期やの末期の時期での適用は容易ではない。そこで、認知症の人も受容できる受動的なハンドケアトリートメントなどの幅広い植物の効用も取入れ、介護者としての家族など関わる全ての国民に有効な、認知症の能動的+受動的園芸療法の実用的な支援技術を確立することが求められている。そこで、認知症の能動的+受動的園芸療法の実用的な支援技術を確立することをプロジェクトの中心に置いた認知症予防システム構築の提案により研究助成金事業に採択された。

2. 研究補助金事業の紹介

1. 私立大学研究ブランディング事業

サクセスフル・エイジング プロジェクト in さが (SAPS)

認知症・介護予防（以下、認知症予防）は、第1次予防（病気の発症予防）、第2次予防（病気の早期発見・早期治療）、第3次予防（病気の進行防止）の3段階に分けられる。厚生労働省が推進している認知症予防戦略には、ポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチがある。本研究では、認知症予防戦略におけるポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチバランスのとれた実践を念頭に置き、在宅で生活しているMCI（認知症予備軍）および軽度認知症者とその家族介護者を対象とし、いかに地域住民の心を動かし検査や活動の参加につなげていくかに関する研究を実施している。（図1）。

2. 九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム (PF) 事業

PF地域の健康寿命延伸に資する予防教室運用プログラムの開発

少子高齢社会を迎えた我が国において、高齢者を支える仕組みを早期に確立することは喫緊の課題である。特に、国民の健康寿命を延伸し、医療介護等にかかる社会保障費を削減することは喫緊の課題となっている。健康・医療・福祉専門員会では、PF地域で各校が実施している健康・医療・福祉に関するプログラムを集約し、「地域社会で実施される健康増進・疾病予防教室等に提供する健康寿命延伸プログラムの開発」を目指す。各校がそれぞれに実施しているプログラムに一定の方向性を持たせ、PF地域で当該事業を実施するステークホルダーが使いやすい、効果の上がるプログラム開発を行う。①生活習慣病である糖尿病や認知症の予防として各校が実施しているプログラムへの参加および情報集約を行うとともに、当該プログラムを健康寿命延伸プログラムの一部として明確に位置付ける。構成校でそのための検討会を実施する。②PFを組んだからこそ可能となったプログラムを実施する。本分野の認知症予防および健康長寿に向けた能動的・受動的園芸療法の基本的な考え方を図2に示す。

SAPS: 認知症予防推進プログラム

- **事業目的**
すべての地域生活者が、生涯にわたって「こころ」と「からだ」の健康を維持し、社会とのつながりを持ち続けることで、**幸福な一生(サクセスフル・エイジング)**を実現すること
- **対象自治体** 佐賀市、神埼市、中部広域連合
- **方法**
西九州大学が擁する医療・健康・福祉・教育・心理の専門研究者の知見を総合し、「生活支援を科学し・実践する」ために、**地域社会と協働**のもと、以下の認知症予防推進プログラムに取り組む。さらに、これらのプロジェクトを**楽しく継続的**に行えるような**アプリの開発**も行う。

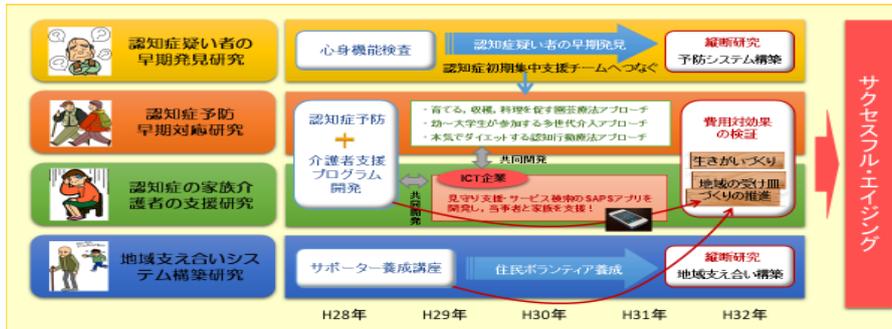


図1. サクセスフル・エイジング プロジェクト in さが (SAPS)

栽培体験(能): 植える→育てる→収穫する→調理する→食べるの長期記憶を刺激するサイクルに!
ハンドケア(受): 安心できる関係 ⇨ 五感で知覚 ⇨ 脳内ネットワーク構築 ⇨ 真のつながりと真の情報 ⇨ わずかなヒントに気付く! ⇨ 予防の実現へ



図2. 認知症予防・健康長寿延伸の中核としての能動的・受動的園芸療法

3. 能動的・受動的園芸療法の認知症予防におけるニーズ

園芸療法の学際性豊かな利点や効用への期待が広範囲に及ぶため、漠然とした概念とした捉えられる傾向が否めない。一方で、時代のニーズに合ったターゲットを選択し能動的+受動的園芸療法技法の取り組むことで、個人的な受託研究の獲得に加えて、個人的および組織的公的研究費の獲得にもつながった。ハンドケアトリートメントや脳の若返りアロマなど受動的にみえる活動は、ニーズや本音を引き出す真のコミュニケーションの構築につながりやすく、病状のステージを問わない利点もある。時代のニーズに即して取り組みに複合的な効用を加味したことにより、地域社会への貢献および公的研究費の獲得につながり、園芸療法技法全体の認知の向上につながるものと期待された。

本報告の一部は、(社)莞爾会 - 西九州大学受託研究費 (代表小浦), (株)アールエーシー - 西九州大学受託研究費 (代表小浦), 科学研究費 17K01601 (個人, 小浦), 私立大学研究ブランディング事業 (2016, 西九州大学) および九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム事業 (2017) の研究費および資料を活用した。